

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200544		
法人名	株式会社宇宙SORA		
事業所名	グループホーム ハーモニーみずほ		
所在地	静岡県静岡市駿河区みずほ2-5-8		
自己評価作成日	令和5年11月1日	評価結果市町村受理日	令和6年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2294200544-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 5年 11月 18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念にあるように共に生活する一つの「家族」として入居者様に対し「尊敬・感謝」の気持ちを忘れずに一人ひとりに向き合い、常に入居者様の立場に立ったサービスを提供出来るように心がけています。職員同士も同じく「尊敬・感謝」の気持ちを忘れず、やりがいをもって楽しく生き生きと働ける環境作りを目指しています。そうする事で入居者様、ご家族、職員が一つの家屋として一緒に笑いあうことが出来るホームになっていけると思います。一緒に会話をしたり、花壇に花を植えたり、ゲームをしたり、歌ったりと入居者様と職員と一緒に楽しく生活出来る空間になるように日々取り組んでいます。コロナウィルス感染で、地域との交流も、家族との面会でさえも自粛を余儀なくされましたが、少しずつではありますが、再開をし、入居者の皆さんが、地域社会との関りを通じ、行事に参加したりして、より生き生きとした生活が出来る様にして行きたいと思っています。

現在、面会は予約制で、1日2組15分で行っているが、家族以外の知人からの問い合わせもある。コロナ禍で地域交流が限られていた中で、近所からウエスや衣類の差し入れ、新聞販売店からの新聞やちらしをもらっていた。散歩に出かけると近所の人に積極的に挨拶をしている。管理者は話しやすく、職員の本音を聞き出すようにして、困っていることを話すすぐに対応してくれ、収納や備品の整理等に力を入れ、施設内の雰囲気良くくなっている職員ヒヤリングから確認できた。花壇には季節の花が植えられ、野菜が作られていて整備されている。利用者が気持ちよく過ごせるように職員は利用者の気持ちを考え、気づいたことは申し送りノートや会議で話し合い情報共有してケアにあたっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を事務所に掲示し、毎朝の申し送り時に参加職員全員で唱和し、時には暗唱し、基本理念の周知に努めています。	法人の基本理念を毎日唱和し、時には暗唱している。基本理念に基づいて、事業所の理念「余裕のない時こそ初心に返り笑顔で対応」を作成して実践につなげ、個人目標を設定し振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウィルスで交流も自粛しておりました。今夏頃より行事が再開されお誘いも頂いておりましたが、油断を許さぬ状況に参加は出来ておりません。	散歩に出かけると、近所の方々に挨拶や声かけをしている。近所の方がウエスや衣類、新聞紙を届けて下さったり、農家の方が植えているひまわりや菊を見て楽しませてもらっている。今後は、カフェなどにも参加して地域貢献に取り組めるよう検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議でホーム通信をお渡しし、ホームでの生活の様子を知って頂けるようにしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1回書面会議として開催していました。5月より、対面での会議に戻り、「ホームの状況、地域の状況など」の意見交換を行っている。有用な情報も頂いている。	運営推進会議は、自治会長や民生委員、包括支援センターの職員、家族が参加して対面で開催されている。詳細な近況報告や時系列で行事などを伝え、参加者から意見をもらっている。	議事内容には、事故報告やヒヤリハットを載せたり、議事録には出された意見、その回答を掲載し、参加されていない家族にホームの実態や運営推進会議の内容が伝わるような工夫と、運営に活かされることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議でホームの利用者・職員を気遣う御言葉を頂いたりしています。福祉事務所も入居者様の面会や、不安な事はいつでも相談できる関係性が出来ています。介護相談員派遣は、家族面会の制限がなくなったら再開しようと思っています。	地域包括支援センターの職員にはわからないことや利用者とのかかわり方など電話などで教えてもらっている。生活保護者や権利擁護の関係者とは定期的に意見交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0を宣言しています。フィジカルロックは、全くありません。リスクマネジメント委員会が3か月に1回会議を開催、スタッフミーティングでは、特に、スピーチロックについて、何度も取り上げ、意見交換、知識習得、実施練習もしている。	指針、マニュアルは整備されている。委員会は3か月に1回開催されていて、研修は年間計画に組み込まれ、身体拘束の基本と特にスピーチロックや声かけを重点的に行っている。	

静岡県(グループホームハーモニーみずほ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホームミーティングで虐待について話し合う機会を設けている。普段の業務現場でも職員同士言葉遣いなど注意しあえる環境づくりを目指している。また、管理者は現場ですぐ注意するようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用している入居者様がいるので、担当の方と連絡を取り合っています。職員も、月1回の面会を通じて面識がある。制度などホームミーティングで理解できるように機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の面談時にご家族と話をして不安や疑問について理解して頂けるように丁寧に説明するように心掛けています。契約時の読み合わせ時にも、その都度、不安・疑問に対して説明をしている。、「いつでも、何でも結構です、ご連絡下さいね」と言葉を添える様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の体調に変化があった時は勿論の事、衣替え時等も含め、細目に連絡取らせていただいている。又、面会時、運営推進会議でもご家族から何か意見・要望があれば反映出来るように取り組んでいる。	家族への報告を重要視しており、こまめに家族に電話をするように心がけている。また、必要な物を持って来てもらったり、福祉用具の変更等の相談もしている。担当者のコメントを載せた手書きのお便りを定期的に送付し、家族からの意見や要望を聞けるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホームミーティングで、それぞれの委員会に発信してもらい、全員で意見交換する場としている。管理者は職員に積極的に声かけをし何か不安などがあれば其の都度相談にのるようにしている。	職員ができるだけ多く参加できる日を選んで、毎月ミーティングを行っている。防災、環境、身体拘束等の委員会からの報告をうけ意見交換をしている。管理者はできるだけ職員の本音を聞けるよう、積極的に声かけをしたり意見を拾っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員一人一人の生活や価値観を把握するため、細目に声掛けをし、希望休を含め、仕事と私生活が両立出来るよう、勤務表が出来ると、配布前に無理がないか事前に確認をしてもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年末・年始のコロナ罹患により、職員不足が解消されず、法人外研修の参加は1回のみとなったが、スタッフミーティングでは毎月テーマを決め、ミニ研修を実施している。		

静岡県(グループホームハーモニーみずほ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の小規模ホームの連絡会議が開催されるのですが現在ではできていない。職員が気軽に交流できる場として市介護福祉士協会へのライン参加を勧めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の基本情報をもとに、ご本人の意向も確認しながら安心して生活が出来るよう支援に努めている。その後職員が声かけや気づいたことなど、申し送り、ノート、会話、会議等積極的に情報共有し連携を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や面談時にご家族の不安や意見を聞きケアに活かしている。その後も不安、疑問などがあれば気軽に連絡頂くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント時に、ご本人・家族と話しニーズを聞き職員に情報を提供し共有している。他のサービスが必要な場合、家族と相談しながら、ご本人にとって良い方向を検討し実践している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人が出来る、出来ないを見極めながら、出来ることは御願いし、出来ないことは一緒に行うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子は面会時やホーム通信、ブログでお知らせし、身体的、精神的に変化があった場合には、電話連絡をし、情報共有出来るようご家族とコミュニケーションを図っている。面会も、制限させて頂いているが再開しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本来ならば、ご家族はもとより、友人・知人も気軽に尋ねていただけるよう、夜間以外は無施錠。無施錠は、継続しているが、面会は、必ず事前連絡頂いている。	現在は1日2組、15分、予約制で面会を再開している。家族以外に近所に住んでいた人も来所されたり、散歩に出かけた際は、近所の方とも挨拶を行い、関係性が途切れないように心掛けている。	

静岡県(グループホームハーモニーみずほ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性を大切にし、入居者様の関係を把握し穏やかに生活が出来るよう、食卓やソファの席を考え、ときには席替えなどもする。レクリエーションやイベント時には、階をまたいでの移動もしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までの関りで出来た信頼関係を大切に、契約が終了してからも、必要な時に連絡を頂いている。相互に相談しあえる関係を継続出来るように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員と入居者様が会話する機会を多く作り、一人ひとりの思いをうけとめられるように努めている。うまく伝えられない時は表情や行動から思いを理解するよう努めている。	職員は業務の中で利用者に関りを持つように意識している。テレビ番組の内容や雑誌、チラシ等を使って声かけをして、利用者の思いをくみ取るようにしている。聞き取った内容は職員同士で情報を共有して意見交換をしてケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人からの生活歴、能力などを聞き取り、職員間で共有している。入居直後は特に、不安にならないように、見守りや声かけに配慮し、その人らしく生活出来る様にケアしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間での話し合いや個人記録、健康チェック表を活用して現状の把握に努めている。申し送りやホームミーティングを利用しケアの見直しをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向を確認して往診時に主治医の意見も聞いている。ミーティング時に職員が意見を出し合い計画書を作成している。	ミーティングで利用者のアセスメントを行っている。モニタリングはケアマネジャーが職員から意見を聞き、日報等を確認して行い、医師や家族の意見を聞いてケアプランを作成している。	ミーティングで意見が出されているがケアプランに反映されていない内容があるので、現状に即したケアプランを作成し職員で介護計画を活用してケアに活かせるよう期待します。家族アンケートで介護計画書作成の話し合いがなされていないという意見が有り、早めの対応を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や排泄記録、健康チェック表を活用し情報の共有に努めている。毎朝の申し送り時日々の変化の情報を共有し介護計画書の見直しに活かしている。		

静岡県(グループホームハーモニーみずほ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活過程で新たなニーズ(状態の変化等)に対してご家族に相談しながら福祉用具や、外部医院の受診等の支援に柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのお店に買い物に出かけたり、行き帰りの道中、住民と挨拶を交わしたり色々な情報交換もしている様子。現在は自粛中であるが、地域の行事にも参加を再開したい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望であれば従来の病院を受診することは可能です。提携医の往診は月2回の往診と緊急時の往診が可能。24時間体制で電話でも対応してくれています。随時医療が受けられ安心できる支援体制が整っています。	現在は、1名のみ入居前のかかりつけ医に、他の利用者は協力医に受診している。双方とも月2回の訪問診療と24時間対応で相談ができる。他科についても初期対応が可能で、場合により紹介状を出してもらえ、通院については家族が対応している。看護師も週1回健康チェックに入り、体調の相談ができる体制作りがされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常のケアの様子を職場内看護師に伝え健康チェック、爪切り等の看護処置を受けている。訪問看護師に相談した場合は医療と直結しているため往診や薬、点滴治療等の処置が受けられ適切な支援が来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時施設での状況がわかるよう介護サマリーなどで詳しい情報を相談員、担当看護師に伝えるようにしている。面会や電話などで相談員、担当看護師などと退院後の受け入れ体制を相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化した場合の対応に関する指針」を読み合わせ説明を行っている。今後状態の悪化がみられた場合、医師、家族、施設で話し合い、施設で出来る看取りの方向性も含めて三者で連携していく旨を伝えている。	入居時に重度化と終末期の対応について説明し同意書ももらっている。状態の変化が見られると医師は家族、職員に現在と今後の状態について説明をする。家族と今後の方針について話し合い、支援に取り組んでいる。看取りの研修は年間の研修計画に組み込まれ、職員は昨年の経験を振り返り課題を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については職員が対応できるよう説明している。応急手当についても研修を行い対応できるようにしている。		

静岡県(グループホームハーモニーみずほ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練と防災委員会主導で安全に避難出来る方法など定期的に知識習得の為に研修を行っている。消火器の場所の確認、点検、防災用品のチェック、避難通路の確保、整理整頓を行っている。	年2回防災委員会が中心になって避難訓練の計画をし、実施している。備蓄のリストは整備され、法人本部が内容を管理し、全職員が備蓄品を把握しやすいように保管場所の整理を行った。職員の連絡網は準備され、毎年法人本部には発電機の導入を要望している。	夜勤者は全員、夜間想定 of 訓練を実施できるように調整を行い、連絡網を利用しての訓練も希望します。長期停電に備え発電機の導入等を法人と共有して、早めに対応できるよう期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりにあった声掛けを心掛けている。出来ないことや失敗があっても自尊心を傷付けないよう対応している。常に受容・傾聴・共感に心掛けるよう努めている。	現在、対応がむずかしい利用者があり、職員で話し合い、その方の意向に沿えるよう努めている。職員同士で知り得たことは申し送りノートや会議で共有し、利用者へ寄り添った声かけや対応ができるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居様が自己の希望を言いやすい雰囲気作りや声掛けに努め、言葉に出来ない入居様には表情などで察するように努めている。ご本人が納得出来るよう話をさせて頂くなど、自己決定出来る支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居様の性格、生活リズムを理解しそれぞれのペースに合わせた声掛けをし、その人らしい過ごし方を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	3ヶ月に1回訪問理容により散髪をしている。衣類は自分の好みの服を選ぶことが出来るよう自立支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本日のメニューを伝え食事の話題で話をしたり、食後の片付けも職員と一緒に رفتりする。	食材は業者に配達してもらい、職員が調理している。訪問当日も昼食の良い匂いが漂い、利用者は盛り付け、テーブル拭き、お盆拭き等出来ることを手伝っている。施設の菜園で育てた野菜が食卓に上ることもある。敬老会、誕生会等のイベントは職員が利用者へ喜んでもらえるような企画をし、実施している。夏には恒例のスイカ割り、大きなスイカを用意し盛り上がった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常食やミキサー、刻み食、お粥など入居様の状態に合わせた形態で提供している。嚥下状態に合わせてスプーンの形状を変えるなどして安全に摂取出来るように努めている。		

静岡県(グループホームハーモニーみずほ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。自分で出来る方は声掛けで促し、出来ない方は介助にて歯ブラシ、スポンジブラシを使用している。歯の痛み、義歯の調整等は歯科往診で診てもら環境が整っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し定期的にトイレ誘導、パッド交換を行っている。介助が必要な方は羞恥心に配慮しながら洗浄し清潔が保てるよう支援している。	排泄チェック表に記録し、個々の排泄パターンを把握して定期的にトイレ誘導をしたり、自立の利用者には見守りの支援をしている。入居後紙オムツからリハビリパンツに改善した利用者がいる。夜間は体調に考慮し、ポータブルトイレを使用する人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動量に限りがある方は多くいるため服薬による排便コントロールをしている方が多い。排泄チェック表を確認しながら主治医に相談し薬の調整を行っている。毎日の体操、歩行運動で体を動かし水分摂取量にも注意しながら便秘解消に繋げている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に入居者全員が平等に入浴出来るよう入浴チェック表があるが、ご本人のペース、体調に考慮して入浴を行っている。拒否がある方には声掛けに注意し、スムーズに入浴が出来た場合の情報共有をしている。	週2回、午前午後、その日の状況によって臨機応変に入浴支援をしている。冬は、体が温まりやすいように入浴剤を使用したり、シャワー浴の利用者には足湯をしながらシャワー浴を行っている。現在入浴拒否をされる利用者の対応を職員で検討し、意向を確認しながら声かけの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のペースで過ごしており、居室への出入りも自由に行っている。居室で臥床される方もいますが適時声掛けを行い、夜間の睡眠に支障が無いように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のセット時のチェック、服薬時の声掛けによる服薬ミスの予防、服薬後の袋のチェックとミスが起こらないようにチェック体制を強化している。薬の変更があった場合は管理日誌の特記に記入し職員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方が出来る事、得意な事を声掛けにて行っている。嗜好品も可能な限り対応している。イベントも季節を感じて貰えるようなイベントを実施するようにしている。		

静岡県(グループホームハーモニーみずほ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症予防のため。外部との接触がない施設周辺の散歩や季節を感じて貰えるようなドライブ企画を実行し楽しんで頂けるよう支援している。又、家族に協力していただき一緒に外出も再開しました。	感染症の状況に気を付けながら、施設近くの畑の様子(野菜、花)を楽しんで散歩をしたり、花壇の手入れをしている。外部との接触を注意して、海辺へのドライブを楽しんだ。また、家族との外出も再開し、希望者へは予約制で支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時よりお小遣い金はホームで預かり管理している。お小遣い帳に記入し毎月ご家族様にお小遣い帳のコピーを送っている。お金の所持は無くとも安心して過ごして頂けるよう支援している。家族に了承のもとお金を所持している方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様から「電話を掛けたい」と希望があった場合ご家族様に連絡し状況を確認、考慮し取次を行う。頻繁に希望される場合は安心して落ち着いて過ごして頂けるよう声掛けをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除機、モップ掛けを行い清潔保持をしている。手すりやドアノブ、椅子、テーブルなどを消毒作業し室内の換気も定期的に行っている。壁面には入居者様が制作した作品や季節を感じて貰えるような作品を入居者様と一緒に制作し飾るようにしている。	居間の壁面には色紙で作成した銀杏、もみじの木が掲示され、利用者はソファに座ってテレビを見たり、食堂から外を眺めたり思い思いの場所で寛いでいた。職員は1日1回掃除機をかけ、消毒液でのモップがけ、手すりやドアノブ等を拭き、換気は1日3回定期的に行い、環境整備に留意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様が自由にテレビを観たり談笑出来るソファを設置している。その他入居者様皆で楽しめるようトランプ、カルタ、ゲームなどを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居前の生活の中で普段使い慣れた馴染みの家具、寝具、写真、仏壇など持って来て頂いている。今までの生活感を大切に落ち着いて過ごせる空間が出来るよう配慮している。	備え付けの移動式チェストがベッドの位置や動線を考えて配置され、その上には家族の写真や配偶者の位牌が置かれていた。洋服の好きな利用者は衣装ケースやハンガーラックを持参したり、自作の塗り絵や花の写真の切り抜きを飾っている部屋もある。衣替えは家族が来所して行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面に十分に配慮し声掛け見守りをしながらその人が出来る能力に応じて支援を行っている。介助が必要な方には過度な介護にならないよう気を付けて安全面に配慮した自立支援に努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200544		
法人名	株宇宙SORA		
事業所名	グループホーム ハーモニーみずほ		
所在地	静岡県静岡市駿河区みずほ2-5-8		
自己評価作成日	令和5年11月1日	評価結果市町村受理日	令和6年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2294200544-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 5年 11月 18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念にあるように共に生活する一つの「家族」として入居者様に対し「尊敬・感謝」の気持ちを忘れずに一人ひとりに向き合い、常に入居者様の立場に立ったサービスを提供出来るように心がけています。職員同士も同じく「尊敬・感謝」の気持ちを忘れず、やりがいを持って楽しく生き生きと働ける環境作りを目指しています。そうする事で入居者様、ご家族、職員が一つの家族として一緒に笑いあう事が出来るホームになっていけると思います。一緒に会話をしたり、花壇に花を植えたり、ゲームをしたり、歌ったりと入居者様と職員と一緒に楽しく生活出来る「空間になるように日々取り組んでいます。コロナウィルス感染で、地域との交流も、家族との面会でさえも自粛を余儀なくされましたが、少しずつではありますが、再開をし、入居者の皆さんが、地域社会との関りを通じ、行事に参加したりして、より生

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を事務所に掲示し、毎朝の申し送り時に参加職員全員で唱和し、基本理念の周知に努めています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウィルスで交流も自粛しておりました。今夏頃より行事が再開されお誘いも頂いておりましたが、油断を許さぬ状況に参加は出来ておりません。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議でホーム通信をお渡しし、ホームでの生活の様子を知って頂けるようにしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1回書面会議として開催していました。5月より、対面での会議に戻り、「ホームの状況、地域の状況などの意見交換を行っている。有用な情報も頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議でホームの利用者・職員を気遣う御言葉を頂いたりしています。福祉事務所も入居者様の面会や、不安な事はいつでも相談できる関係性が出来ています。介護相談員派遣は、家族面会の制限がなくなったら再開しようと思っています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0を宣言しています。フィジカルロックは、全くありません。リスクマネジメント委員会が3か月に1回会議を開催、スタッフミーティングでは、特に、スピーチロックについて、何度も取り上げ、意見交換、知識習得、実施練習もしている。		

静岡県(グループホームハーモニーみずほ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホームミーティングで虐待について話し合う機会を設けている。普段の業務現場でも職員同士言葉遣いなど注意しあえる環境づくりを目指している。また、管理者は現場ですぐ注意するようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用している入居者様がいるので、担当の方と連絡を取り合っています。職員も、月1回の面会を通じて面識がある。制度などホームミーティングで理解できるように機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の面談時にご家族と話をして不安や疑問について理解して頂けるように丁寧に説明するように心掛けています。契約時の読み合わせ時にも、その都度、不安・疑問に対して説明をしている。、「いつでも、何でも結構です、ご連絡下さいね」と言葉を添える様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の体調に変化があった時は勿論の事、衣替え時等も含め、細目に連絡取らせていた頂いている。又、面会時、運営推進会議でもご家族から何か意見・要望等があれば反映出来るように取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホームミーティングで、それぞれの委員会に発信してもらい、全員で意見交換する場としている。管理者は職員に積極的に声をかけをし何か不安などがあれば其の都度相談にのるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員一人一人の生活や価値観を把握するため、細目に声掛けをし、希望休を含め、仕事と私生活が両立出来るよう、勤務表が出来ると、配布前に無理がないか事前に確認をしてもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年末・年始のコロナ罹患により、職員不足が解消されず、法人外研修の参加は1回のみとなったが、スタッフミーティングでは毎月テーマを決め、ミニ研修を実施している。		

静岡県(グループホームハーモニーみずほ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の小規模ホームの連絡会議が開催されるのですが現在ではできていない。職員が気軽に交流できる場として市介護福祉士協会へのライン参加を勧めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の基本情報をもとに、ご本人の意向も確認しながら安心して生活が出来るよう支援に努めている。その後職員が声かけや気づいたことなど、申し送り、ノート、会話、会議等積極的に情報共有し連携を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や面談時にご家族の不安や意見を聞きケアに活かしている。その後も不安、疑問などがあれば気軽に連絡頂くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント時に、ご本人・家族と話しニーズを聞き職員に情報を提供し共有している。他のサービスが必要な場合、家族と相談しながら、ご本人にとって良い方向を検討し実践している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人が出来る、出来ないを見極めながら、出来ることは御願いし、出来ないことは一緒に行うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子は面会時やホーム通信、ブログでお知らせし、身体的、精神的に変化があった場合には、電話連絡をし、情報共有出来るようご家族とコミュニケーションを図っている。面会も、制限させて頂いているが再開しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本来ならば、ご家族はもとより、友人・知人も気軽に尋ねていただけるよう、夜間以外は無施錠。無施錠は、継続しているが、面会は、必ず事前連絡頂いている。		

静岡県(グループホームハーモニーみずほ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性を大切にし、入居者様の関係を把握し穏やかに生活が出来るよう、食卓やソファの席を考え、ときには席替えなどもする。レクリエーションやイベント時には、階をまたいでの移動もしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までの関りで出来た信頼関係を大切に、契約が終了してからも、必要な時に連絡を頂いている。相互に相談しあえる関係を継続出来るように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員と入居者様が会話する機会を多く作り、一人ひとりの思いをうけとめられるように努めている。うまく伝えられない時は表情や行動から思いを理解するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人からの生活歴、能力などを聞き取り、職員間で共有している。入居直後は特に、不安にならないように、見守りや声かけに配慮し、その人らしく生活出来る様にケアしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間での話し合いや個人記録、健康チェック表を活用して現状の把握に努めている。申し送りやホームミーティングを利用しケアの見直しをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向を確認して往診時に主治医の意見も聞いている。ミーティング時に職員が意見を出し合い計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や排泄記録、健康チェック表を活用し情報の共有に努めている。毎朝の申し送り時日々の変化の情報を共有し介護計画書の見直しに活かしている。		

静岡県(グループホームハーモニーみずほ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活過程で新たなニーズ(状態の変化等)に対してご家族に相談しながら福祉用具や、外部医院の受診等の支援に柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのお店に買い物に出かけたり、行き帰りの道中、住民と挨拶を交わしたり色々な情報交換もしている様子。現在は自粛中であるが、地域の行事にも参加を再開したい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望であれば従来の病院を受診することは可能です。提携医の往診は月2回の往診と緊急時の往診が可能。24時間体制で電話でも対応してくれています。随時医療が受けられ安心できる支援体制が整っています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常のケアの様子を職場内看護師に伝え健康チェック、爪切り等の看護処置を受けている。訪問看護師に相談した場合は医療と直結しているため往診や薬、点滴治療等の処置が受けられ適切な支援が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時施設での状況がわかるよう介護サマリーなどで詳しい情報を相談員、担当看護師に伝えるようにしている。面会や電話などで相談員、担当看護師などと退院後の受け入れ体制を相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化した場合の対応に関する指針」を読み合わせ説明を行っている。今後状態の悪化がみられた場合、医師、家族、施設で話し合い、施設で出来る看取りの方向性も含めて三者で連携していく旨を伝えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については職員が対応できるよう説明している。応急手当についても研修を行い対応できるようにしている。		

静岡県(グループホームハーモニーみずほ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練と防災委員会主導で安全に避難出来る方法など定期的に知識習得の為の研修を行っている。消火器の場所の確認、点検、防災用品のチェック、避難通路の確保、整理整頓を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりにあった声掛けを心掛けている。出来ないことや失敗があっても自尊心を傷付けないよう対応している。常に受容・傾聴・共感に心掛けるよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が自己の希望を言いやすい雰囲気作りや声掛けに努め、言葉に出来ない入居者様には表情などで察するように努めている。ご本人が納得出来るよう話をさせて頂くなど、自己決定出来る支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の性格、生活リズムを理解しそれぞれのペースに合わせた声掛けをし、その人らしい過ごし方を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	3ヶ月に1回訪問理容により散髪をしている。衣類は自分の好みの服を選ぶことが出来るよう自立支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本日のメニューを伝え食事の話題で話をしたり、おいしく安全に食べれるよう、食前口腔体操をしっかり行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常食やミキサー、刻み食、お粥など入居者様の状態に合わせた形態で提供している。嚥下状態に合わせてスプーンの形状を変えるなどして安全に摂取出来るように努めている。		

静岡県(グループホームハーモニーみずほ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。自分で出来る方は声掛けで促し、出来ない方は介助にて歯ブラシ、スポンジブラシを使用し行っている。歯の痛み、義歯の調整等は歯科往診で診てもら環境が整っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し定期的にトイレ誘導、パッド交換を行っている。介助が必要な方は羞恥心に配慮しながら洗浄し清潔が保てるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動量に限りがある方は多くいるため服薬による排便コントロールをしている方が多い。排泄チェック表を確認しながら主治医に相談し薬の調整を行っている。毎日の体操、歩行運動で体を動かし水分摂取量にも注意しながら便秘解消に繋げている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入居者全員が平等に入浴出来るよう入浴チェック表があるが、ご本人のペース、体調に考慮して入浴を行っている。拒否がある方には声掛けに注意し、スムーズに入浴が出来た場合の情報共有をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のペースで過ごしており、居室への出入りも自由に行っている。居室で臥床される方もいますが適時声掛けを行い、夜間の睡眠に支障が無いように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のセット時のチェック、服薬時の声掛けによる服薬ミスの予防、服薬後の袋のチェックとミスが起こらないようにチェック体制を強化している。薬の変更があった場合は管理日誌の特記に記入し職員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方が出来る事、得意な事を声掛けにて行っている。嗜好品も可能な限り対応している。イベントも季節を感じて貰えるようなイベントを実施するようにしている。		

静岡県(グループホームハーモニーみずほ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症予防のため、ご家族との外出や地域行事の参加などは自粛中。外部との接触がない施設周辺の散歩や季節を感じて貰えるようなドライブ企画を実行し楽しんで頂けるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時よりお小遣い金はホームで預かり管理している。お小遣い帳に記入し毎月ご家族様にお小遣い帳のコピーを送っている。お金の所持は無くとも安心して過ごして頂けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様から「電話を掛けたい」と希望があった場合ご家族様に連絡し状況を確認、考慮し取次を行う。頻繁に希望される場合は安心して落ち着いて過ごして頂けるよう声掛けをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除機、モップ掛けを行い清潔保持をしている。手すりやドアノブ、椅子、テーブルなどを消毒作業し室内の換気も定期的に行っている。壁面には入居者様が制作した作品や季節を感じて貰えるような作品を入居者様と一緒に制作し飾るようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様が自由にテレビを観たり談笑出来るソファを設置している。その他入居者様皆で楽しめるようトランプ、カルタ、ゲームなどを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居前の生活の中で普段使い慣れた馴染みの家具、寝具、写真、仏壇など持って来て頂いている。今までの生活感を大切にしながら落ち着いて過ごせる空間が出来るよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面に十分に配慮し声掛け見守りをしながらその人が出来る能力に応じて支援を行っている。介助が必要な方には過度な介護にならないよう気を付けて安全面に配慮した自立支援に努めている。		